

農産部門では、8～9月の断続的な降雨により、ジャガイモの早生品種の収量が低下。一方で小麦やビートは高収量を確保し、農産物の生産高は前年を上回った。酪農・畜産部門では、生乳の消費落ち込みが影響し、乳価は減少したものの生産量は増加。養鶏・ブロイラーの生産量は前年を下回ったものの、1年を通して高値で推移したことなどから、畜産物の生産高は85億7,800万円と過去最高を記録した。

また、農業振興方策として今年度から第15次中期5カ年計画を進める。生産額の目標は小麦11億2,700万円、ジャガイモ15億3,900万円、枝豆5億8,200万円、生乳49億4,400万円など。

任期満了に伴い退任した山本勝博組合長は「組合長として20年にわたり、皆さまにご協力いただけたことに感謝したい」とあいさつした。

その他の役員は次の通り。(敬称略)

- ▽常務理事＝林浩幸（再）
- ▽使用人兼務理事＝井川晃博（新）
- ▽非常勤理事＝水崎勝秀、宮部正邦（以上再）、大野孝幸、島田浩幸、堀口政澄、山田敏洋（以上新）
- ▽常勤監事＝阿部昇（新）
- ▽非常勤監事＝三木広美（再）

## 取扱高 過去最高68億円 総生産も更新86億円 JAひろお 2022年4月22日（金）

【広尾】JAひろお（鯖江雅浩組合長、組合員151人）の通常総会が、20日午前10時から広尾町農村環境改善センターで開かれ、2021年度決算や22年度事業計画などを承認した。21年度の総取扱高は前年度比1.5%増の68億9,836万円、町内の総生産額（JA系統外の取り扱い含む）は3.0%増の86億1,235万円で、いずれも過去最高だった。

取扱高の内訳は農産品が約2億2,000万円（14%減、一部未精算あり）、畜産品が約66億7,000万円（2.2%増）。農産品は小麦を中心に大半の作物で計画を上回った。生乳生産は6万5865トンと前年度に続き6万トン台を突破、飼料作物の生育も順調だった。和牛は価格が安定し、取扱高は前年を上回った。

町内の農業生産額が80億円を超えるのは3年連続。堅調な生乳生産を背景に拡大傾向は続いている。

鯖江組合長は「取扱額、町内生産額とも一定の実績を上げたのは組合員の努力のたまもの。年末年始に心配された生乳の廃棄は回避されたが、引き続き消費拡大に取り組む」と述べた。

総会は感染症を考慮し書面を中心に開催。116人（本人出席は6人）が参加した。21年度決算では8,747万円の当期剰余金を計上、前期繰越分を含む1億1,100万円の処分案も承認した。

## 合併初年度の目標達成 粗生産額99億円 JA十勝池田町総会 2022年5月12日（木）

【池田】JA十勝池田町（鈴木雅博組合長、正組合員386人）の通常総会が11日、町西部地域コミュニティセンターで開かれた。2021年度の農畜産物粗生産額は99億1,600万円で、共済金や奨励金を含む総額は103億5,300万円。昨年3月にJA十勝池田町とJA十勝高島が合併し、新JAとしてスタートした初年度に目標とする100億円に到達した。

書面議決332人を含む350人が出席。鈴木組合長が「皆さんの経営努力と高い技術によって出来秋を迎えられたことに改めて敬意を表す。資材や飼料、燃油が高騰する中、役職員が一丸となり、先人の思いと苦勞を忘れることなく、新たな時代に取り組む」とあいさつした。

畑作は春先から天候に恵まれ、6月の局地的な集中豪雨や7月の高温と干ばつに見舞われたが、小麦やビートが高収量を確保し、農産物の粗生産高は63億4,600万円

だった。酪農畜産は生乳が減少した一方、肉牛の価格が上昇したことで35億7,000万円だった。

当期の剰余金は4億3,064万円、出資配当金は1951万円、次期繰越剰余金は1億5,520万円とすることを了承した。

今年度の事業計画として、Aコープ高島店の継続と利用促進、ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を使った店頭販売の実施などを盛り込んだ。欠員となっていた理事に、信用部長の新沼二郎氏（41）を選任した。